

## 「うちの取組」

### —ワーク・ライフ・バランスと人材多様性 (diversity) の促進を目指して—

#### 1. 岐阜大学の概要と現状

岐阜大学は、5 学部（教育学部、地域科学部、医学部、工学部、応用生物科学部）、5 研究科（教育学研究科、地域科学研究科、医学系研究科、工学研究科、応用生物科学研究科）、3 独立研究科（連合農学研究科、連合獣医学研究科、連合創薬医療情報研究科）、各種センター等から成る総合大学です。学生数（平成 26 年 5 月 1 日現在、（ ）は女子学生数で内数）は、学部学生数 5,719 名（2,092 名）、大学院学生数 1,534 名（382 名）となっています。

#### 2. 男女共同参画の歩み

平成 22 年度に「男女共同参画推進室」を開室し、男女共同参画担当の女性副学長が統括しています。同年に「岐阜大学男女共同参画宣言」として基本理念と基本方針を定め、それに対応する「岐阜大学男女共同参画行動計画」を制定しました。「岐阜大学男女共同参画宣言」と「岐阜大学男女共同参画行動計画」は、「岐阜大学男女共同参画宣言・行動計画」周知カードを学内に配布し、周知を図っています。平成 23 年度には、教育研究評議会において平成 27 年度までに女性教員比率を 17%以上に引き上げることを決定しました。この間、文部科学省科学技術振興調整費「女性研究者研究活動支援事業（旧女性研究者支援モデル育成）」（平成 22 年度～平成 24 年度）に採択され、意識改革、女性研究者育成、女性研究者支援、人的資源循環支援の 4 つの柱を中心にして男女共同参画を推進してきました。「女性研究者研究活動支援事業（旧女性研究者支援モデル育成）」が終了した平成 25 年度以降は、大学自主経費のもとで、男女共同参画の推進に関わる取組を継続しています。

#### 3. 岐阜大学における取組

##### (1) 子育て支援と環境整備

学内には大学直営保育園として、平成 20 年 4 月に開設した「ほほえみ」（2 歳児～5 歳児、定員 30 名）と、平成 22 年 4 月に開設した「すこやか」（0 歳児～1 歳児、定員 20 名）があり、教職員の仕事と子育ての両立を支援しています。

さらに、本学教職員の子ども（小学生）を対象に、子どもの職場理解の促進、子どもの長期休暇中における本学構成員への保育環境の提供を目的とした「カモミール



カモミールこども大学の実施

こども大学」を実施しています。この取組は、本学教職員に対して一時的な学童保育を提供し、育児期にある教職員を支援するものです。

## (2) 意識改革

平成 22 年度に岐阜大学フォーラム、岐阜シンポジウム、を開催し、平成 23 年度から平成 24 年度にかけては、全 5 学部で男女共同参画に関する意識改革を目的に教員を対象としたセミナーを 2 回ずつ開催しました。また、平成 24 年度には、学長、理事・副学長及び各部長を対象に男女共同参画に関する意識改革のためのセミナーを開催し、幹部層の意識改革にも注力しています。また、同年には、各部局における数値目標の設定とその実現に向けた方策・達成状況の報告を年 1 回求めることを決定し、毎年度、達成状況の報告を求め確認しています。これらの取組により、本学の女性教員比率は、平成 21 年 5 月の 12.7%から平成 26 年 5 月には 15.7%まで増加しています。

職員向けには、毎年 4 月初旬に行われる新任職員研修会で本学の男女共同参画推進への取組等について説明し、構成員の理解の普及に努めています。また、平成 23 年度からは、男女共同参画推進室と人材開発部との共催により「岐阜大学事務系職員ワーク・ライフ・バランス研修」を実施しています。



幹部層向け意識改革セミナーの実施

## (3) 女性研究者育成

女子大学院生が岐阜県内の小中高等学校に赴き、自らの研究内容やこれまでの進路選択の経緯について講義をすることで科学への関心を喚起する「サイエンス夢追い人育成プロジェクト（女子大学院生による出前講義）」を実施しています。これまでに延べ 14 校で計 50 回の講義を実施し、延べ 3,847 名の小中高校生に身近なロールモデルを提示しています。また、平成 22 年度に「岐阜大学女性研究者ロールモデル集—輝く先輩からのメッセージ」を作成し、本プロジェクトの受講生に配布しています。平成 23 年度からは、「サイエンス夢追い人育成プロジェクト」の発展型のプログラムとして、女子高校生を対象にして大学内にて研究室見学と女子大学院生との交流会を開催し、より深く研究・大学生活と触れ合える機会を提供しています。



サイエンス夢追い人育成プロジェクトの実施

## (4) 女性研究者支援

小学校 6 年生までの子どもをもつ女性研究者（産後休暇，育児休業中を除く）、妊娠中の体調不良により、研究活動等の遂行に支障がある女性研究者（産前休暇中を除く）、介護を

行っている女性研究者に研究補助員（研究支援者）を配置する「研究補助員（研究支援者）配置制度」を実施しています。平成 26 年度からは、同様のライフステージにある男性研究者にも対象を広げて運用しています。また、育児や介護等により研究時間の確保が困難な研究者を対象に、SSL-VPN を利用することによって学外においても学内専用ページを利用できるようにして在宅での研究を支援する「インターネットによる在宅研究支援システム（テレワークシステム）」を運用しています。これらの取組により、ライフイベントの発生等により研究活動等の遂行に支障がある時期にも継続して研究を行えるよう支援しています。

#### （5）人的資源循環支援

地域に潜在している高度専門能力を持った女性研究者が学内においてその能力を再び発揮できるようにするため「女性研究者支援のための岐阜大学人財バンク」を設立しました。これにより、学内研究者の研究支援者需要に応じ速やかに人材の配置をおこなうとともに、一時的に研究を中断している女性研究者の再チャレンジを支援する仕組みを構築しています。さらに、若手女性研究者、人財バンク登録者を対象とした各種セミナーを実施することで研究能力を研鑽する機会を定期的に設けています。

#### 4. 今後の取組について

男女共同参画推進室の設置以降、人材多様性に関する意識は大きく変化してきました。この変化は女性教員の比率増加としてあらわれています。一方で、上位職階への女性教員が少ないことなど課題も残されています。今後は、積み残された課題を解決していくと同時に、性別のみならず外国籍者や障害のある人なども含め、あらゆる人が自身の能力を十分に発揮できる職場環境を整備する取組を進めていきたいと思えます。

岐阜大学男女共同参画推進室 URL

<http://www1.gifu-u.ac.jp/~sankaku/>

（岐阜大学男女共同参画推進室  
特任助教 松井真一）